

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスはやて2号		
○保護者評価実施期間	令和8年1月12日		～ 令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21人	(回答者数) 15人
○従業者評価実施期間	令和8年1月12日		～ 令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間の情報共有を常に行い、子どもの特性に合わせた支援を行っている。	毎日の振り返りミーティング、個別支援計画書の読み合わせなどを通じて、子どもひとりひとりの状況の振り返りを行い、職員全員が子どもの支援目標を自分事として捉え、支援を行っている。	ミーティングの効率化、全職員が児発管の業務ルーティーンの把握を行うなど
2	子どもの特性や他児との関係性、子どもの声も聴きながら、多彩な支援プログラムを取り入れ、子どもを飽きさせない工夫をすることで、子どもたちが通所を楽しみにしている。	活動のためのミーティングを行い、その日のリーダーが中心となり、毎回、職員全員で意見を出し合っている。また、翌日には、前日の集団活動の振り返りミーティングも行っている。	療育プログラムの研修受講（SSTやビジョントレーニング等）や他施設への見学、人事交流など
3	幅広い年齢の子どもたちがいる中で、異年齢同士の交流を大事にしている。	高学年には、リーダーの役割を与え、自己選択、自己決定を尊重し、頼られることで自己肯定感の向上を図っている。	子どもたちの個別活動はもちろんのこと、小集団などのチーム活動を行うことで子ども同士の交流を深められるような活動を取り入れていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童本人だけでなく、保護者やきょうだい児への支援・交流	保護者会などの開催がなく、保護者への支援部分が手薄である。保護者同士が交流したくてもできない状態。	保護者会の開催、保護者向け研修、親子で参加できるイベントの開催など
2			
3			